

インターネットで知り合った人と 会うことの危険性について

埼玉県教育委員会

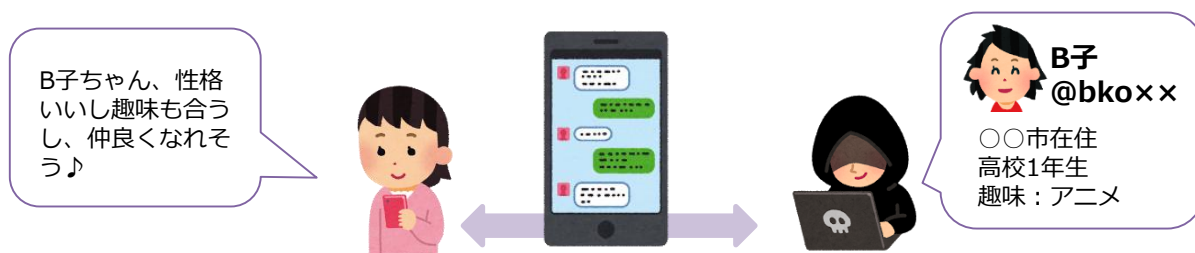
SNSなどのインターネット上のサービスでは、実生活の友人だけでなく、面識のない人物ともメッセージを送りあって交流することができます。共通の話題などをきっかけにやりとりを重ねるうちにそうした人物と仲良くなり、実際に会おうといった話になるのも珍しいことではありません。

しかし、いくら仲良くなったからといって、実際に会うことはとても危険です。子どもたちがインターネットで知り合った人と会って、事件に巻き込まれてしまったというケースもよく見られます。

なぜ面識のない人物を信じてしまうのか

ではそもそも、なぜまったく面識のない人物を信用して会いに行ってしまう子どもたちがいるのでしょうか。それはインターネットでのやりとりの特徴と関係しています。

インターネットでのやりとりでは、お互いの顔が見えません。そのため、顔写真や年齢、性別などのプロフィールを簡単に偽ることが出来ます。インターネットには、相手を信用させるために、同性や年代の人物を装い近づいてくるような悪意を持った人物もたくさんいるのです。



また、インターネットのやりとりでは、相手の情報が少ないからこそ信用してしまいやすい、といった部分もあります。

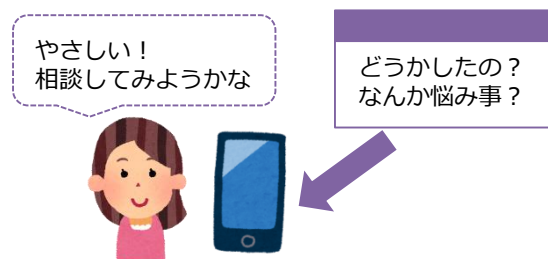
対面のやりとりであれば、相手の様子を見てその人が信用できるかどうか判断します。例えば、悩み事を打ち明けた際に、相手が親身になって聞いてくれているなど感じたら、その人のことは信用するでしょうし、逆に、適当に話を聞き流しているなど感じたら、信用しないでしょう。

しかし、インターネットのやりとりでは、そうした情報が入ってきません。文字だけで相手のことを判断します。そのため、相手からやさしい言葉をかけられただけで、「自分のことをちゃんと考えてくれるいい人だな」と、簡単に相手を信用してしまうことがあるのです。

対面でのやりとり



インターネットでのやりとり



まとめ

インターネットには、犯罪行為などを目的に近づいてくるような人物も少なからずいます。まずは、そうした人物の存在を子どもたちに認識させることが重要です。そのうえで、インターネットでのやりとりでは、対面の場合よりもだまされやすくなる、という特徴を教え、インターネットで知り合った面識のない人物と気軽に会うことは危険であることをしっかり伝えてください。

子どもたちがどのようにインターネットを利用しているか把握するために、普段からインターネットの使い方について親子で話し合うことが大切です。

また、子どもたちと一緒にインターネットを利用し、メリット・デメリット等について学び合うことも有効です。

※本資料は、埼玉県教育委員会の委託により、PITCREW株式会社が作成したものです。